

令和3年度 府中市立府中第五中学校 学校経営報告

1 教育目標

持続可能な社会の担い手として、多様で質的に豊かな成長につながる新たな価値を生み出していくことができる人を育成するため、次の通り学校教育目標及び生徒に身につけさせたい資質・能力を設定する。

校訓「自己発見」

学校教育目標

- 深く考え、志高く生きる人になる : 「未来想像力」
- 自他を敬愛し、心豊かな人になる : 「人間関係形成力」
- 健やかで、社会に貢献できる人になる : 「社会貢献力」

2 目指す学校像

学校の役割は、未来への人材づくりと考え、生徒たちの多様な力と才能を引き伸ばし、社会に有用な人材を育てることにある。地域の人材育成として、教職員・保護者・地域が互いに協力し信頼し合い、義務教育9年間を終えるまでの3年間で、大人になる練習をする学校を目指す。

(1) 目指す学校像 「大人になる練習をする学校」

- ・秩序と潤いの中で生徒が生き活きと一人ひとりの良さを発揮して活動し、笑顔があふれる学校
- ・課題に迅速に対応し、積極的に教育活動の改善・充実を図る学校
- ・保護者や地域から信頼され、安心して生徒を通わせることができる学校

(2) 目指す生徒像 「多様な視点で物事を考え、主体的に行動できる生徒」

- ・物事を客観的な資料等に基づいて多様な視点から考え、自信をもって自らの意見や主張を発表できる生徒
- ・自らを冷静に見つめ、人の気持ちや立場を深く考えながら、公正な判断に基づいて主体的に行動できる生徒
- ・自らの力をより高く伸ばそうとする向上心をもち、その力を進んで地域や社会のために役立てようとする生徒

(3) 目指す教師像 「率先垂範し、生徒とともに考え、行動し、成長し続ける教師」

- ・生徒の学習状況を正しく理解するとともに、自らの指導を厳しく振り返り、生徒の学びが支援できる授業改善を積極的に進める教師
- ・生徒の心情を深く理解し、認め励まししながら、一人一人の望ましい自己実現や集団への適応を支援できる教師
- ・社会の動向を常に注視し、保護者や地域等の正当な願いを受け止めながら、教育公務員として服務の厳正をし、強い自覚に基づいて職務を遂行する教師

2 中期的目標と方策

【教育活動の重点目標】

- (1) 教科の学習を通して身に付けた資質や能力を活用して課題解決力を高め、「多様な視点から物事を考え、主体的に判断し、表現する能力」を育成する。
- (2) 道徳や特別活動を通して、自他の違いを認め、尊重する態度を育み、「心豊かな思いやりの心情」と「全体を考えて行動する態度」を養う。
- (3) 総合的な学習の時間等の活動を通して、社会や世界に対する興味や関心を深め、「自ら課題を設定し、その解決に向けて主体的に取り組む意欲や態度」を育む。
- (4) コミュニティ・スクールとして、積極的に保護者や地域の学校参画を推進し、「生徒の教育活動の豊かな広がりの実現」を目指す。

3 今年度の取り組み目標

(1) 教育活動の目標と方策

今年度は全ての教育活動において新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じながら、「できない」から「できる工夫」を行い、生徒の「主体性」を育む。教職員が学校経営方針を共通認識して学校運営に参画することを目指し、生徒・教職員の一人一人がよりよい府中第五中学校を創る担い手となる教育活動を展開する。

生徒の「主体性」を育むための教育活動を推進し、生徒に教育目標にある「未来想像力」「人間関係形成力」「社会貢献力」の3つのバランスがとれた力を培い、生きる力を養う。

学校教育目標の具現化を図るために、今年度は、以下に重点をおいて取り組んだ。

(2) 今年度の重点目標

① 新型コロナウイルス感染防止対策の徹底と教育課題の充実。「できない」から「できる工夫」へ

※学校行事は新型コロナウイルス感染症対策を講じながらできる実施形態を模索し、運動会、合唱祭、1・2年生の校外学習を実施することができた。特に、上級生の姿を下級生に示せたことは生徒の成長に大きな意味があった。「学級活動や委員会活動、学校行事に積極的に取り組んでいる」生徒肯定的評価88.6%、保護者肯定的評価77.7%、「新型コロナウイルス感染症対策を行って生活できている」生徒肯定的評価96%、保護者肯定的評価92.8%。教員評価でも「実施形態を工夫し感染症対策を講じながら安全に実施できた」との評価があった。

② 基礎・基本の徹底による学力向上

※生徒が意欲的に学習に取り組み、基礎・基本を確実に身に付けることを目指し、毎時間の「ねらい」「まとめ」「振り返り」と少人数・習熟度別指導による指導の充実を図った。授業評価「ねらいやまとめは理解できたか」生徒肯定的評価93.8%、「学習を振り返る場面はあったか」91.4%。少人数・習熟度別指導を実施している数学科及び英語科の授業評価「先生の説明はわかりやすいと思ったか」では、数学科の生徒肯定的評価92.5%、英語科の生徒肯定的評価91.0%であり、生徒にとっても有効な場となっていた。

③ 新学習指導要領の完全実施を踏まえた指導と評価の工夫

※校内研修等を重ね、共通理解を図るとともに、修正を行うなど適正で信頼される評価に向けて取り組んだ。次年度は、さらに信頼される評価とするための研修を

行なう。「学習の評価・評定について理解できている」生徒肯定的評価91.8%、保護者肯定的評価73.5%であった。次年度はより適正で信頼される評価となるよう、年度当初に生徒・保護者への丁寧な説明を行う。

④不登校の解消と個に応じた指導の一層の充実

※不登校生徒の解消に向けて、未然防止及び関係機関と連携を図った。12月からは支援員を活用して週2回午前中の別室を設けた。「学校や学級に行くのが毎日楽しみ」生徒肯定的評価83.8%、保護者肯定的評価89.8%。「学校はあなたの悩みや相談に適切に応じてくれている」生徒肯定的評価87.9%、保護者肯定的評価80.7%であった。「学校や学級に行くのが毎日楽しみ」の肯定的評価が前期よりも後期の方が生徒2.2%、保護者2.4%の減少となった。学習面・生活面ともに生徒が自己肯定感や自己有用感をもちながら学校生活を送れるような取組を行っていくことが必要。

⑤特別支援教育の推進

※巡回指導教員との連携及び特別支援教育コーディネーターを中心に週1回校内委員会を開催し、組織的に対応を行った。学校経営支援員の計画的な配置と活用、巡回相談や特別支援教室への入室等、生徒の将来を見据えた支援の充実を図った。次年度は、特別支援教室拠点校となるため、一層の連携を推進していく。

⑥小中連携の推進

※中学校区での校長連絡会を月1回実施して、情報共有を図った。年3回予定されている小中連携の日であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、6月は中止し、10月には感染症対策を講じながら本校での授業参観と分科会、1月にはリモート分科会を実施して、学びと育ちの連携についての検討を行った。今後の課題としては、五中校区で育てたい児童・生徒像の共有の再認識が必要である。

⑦コミュニティ・スクールの機能の充実

※学校と地域社会が同じ理念を共有しながら進むコミュニティ・スクールの機能を生かして地域等の人材活用を行い、12月に職業講話、冬季休業日に学習教室『地域未来塾』試行実施を行うことができた。今後、学校運営協議会が主体となつての「地域」「家庭」「学校」との連携した取組を一層推進していく。

⑧オリンピック・パラリンピック教育の推進、日本の伝統・文化の交流・発信

※1年生は、1月には講師を招いての茶道体験を行い、日本文化の良さを感じることができた。また、3月にはラグビーの元日本代表を招いて講演会を実施する予定。新型コロナウイルス感染症の状況にもよるが、次年度以降は、近隣幼稚園や小学校、地域と連携を図りながらボランティアマインドの育成を重点的に図っていきいたい。

【学習指導】について

ア 生徒一人一人に「確かな学力」を育む

※生徒授業評価「説明がわかりやすい」の全教科の肯定的評価は94.8%、「自分で考える場面があった」93.5%と概ね高い評価を示していた。しかし、「考えたことを表現したり、伝え合う場面があった」の肯定的評価は87.3%であった。基礎基本の

定着はもちろん、知識を活用した対話的な学びをより一層推進し、思考力・判断力・表現力を育成する言語活動を充実させていくことが課題である。

イ 指導と評価の一体化

※生徒授業評価「ねらいやまとめは理解できた」の全教科の肯定的評価は93.8%、「学習を振り返る場面はあったか」の全教科の肯定的評価は91.4%と概ね高い数値を示している。各教科の「振り返り」を、学習の自己調整に生かしていく指導を行っていくことが課題である。また、「学習の評価、評定の仕方について理解できている」の肯定的評価は生徒91.8%、保護者73.6%であった。評価・評定については、年度当初に生徒・保護者に丁寧な説明を行い、一層信頼される評価を目指すとともに、適正な評価となるよう教員での研修を継続して行っていく。

ウ 主体的・対話的で深い学びでの授業改善

※2学期中は、外部講師を招いての実施を計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、管理職が参観して実施した教科もあった。「授業に意欲的に参加している」の生徒の肯定的評価は91.1%であった。生徒授業評価の「考えたことを表現したり、伝え合う場面があった」の肯定的評価は87.3%であったことから、対話的な学びの充実は課題である。一人1台端末の活用を図るなど、「自分自身での対話」「生徒同士の対話」「生徒と教師の対話」を推進していく。

エ 授業規律・家庭学習を含めた望ましい学習習慣の確立

※「授業規律を守り授業を受けている」の生徒の肯定的評価は97.9%と高い数値であった。「家庭学習の習慣が身に付いている」の肯定的評価は生徒70.5%、保護者55.3%であった。各教科で家庭学習の仕方について丁寧なガイダンスを行うとともに、日常の持ち帰りが可能となった際に、一人1台端末の家庭学習での有効活用も検討していく。

オ PDCAサイクルに基づいた指導・評価の工夫・改善

※学力に関する諸調査の結果分析を行い、学習課題の改善を図るための授業改善の取組を行った。特に、D層の改善に向けて、基礎・基本の定着とともに、言語活動の充実を図っていく。

カ 個に応じたきめ細やかな指導の充実

※少人数・習熟度別指導を実施している数学科及び英語科の授業評価「先生の説明はわかりやすい」では、数学科の生徒肯定的評価92.5%、英語科の生徒肯定的評価91.0%、また、「先生の授業を進めるスピードは良かった」でも、数学科の生徒肯定的評価92.2%、英語科の生徒肯定的評価95.4%であり、生徒にとっても少人数・習熟度別指導が有効な場となっている。次年度から、数学科と英語科では、生徒にもデジタル教科書が配布されるため、一人一台端末を一層活用しての授業展開が課題となる。

キ ICT機器や、一人1台端末の活用

※授業等でのICT機器の活用は積極的に図られるようになってきた。しかし、各教科での一人1台タブレット端末の活用は、全教科での実施となっていないのが現状である。活

用している教員からの発信等を含め、文房具としての積極的な活用を学校全体で推進していく。家庭学習の習慣が身に付いている」の肯定的評価は生徒70.5%、保護者55.3%であった。タブレット端末の日常的な持ち帰りが可能となった際には、タブレット端末を活用した課題のやりとりなども行い、活用を促進していく。

ク より良く生きる力の基盤となる道徳性を育てる道徳科の授業

※教科書を中心として、各学年で工夫を行いながら、内容項目に向けた授業を展開した。道徳授業地区公開講座では、新型コロナウイルス感染症対策のため、タブレット端末を持ち帰らせてのオンライン道徳を実施した。ローテーション道徳も概ね実施することができた。「道徳の授業は自分自身の心の成長に役立っている」生徒肯定的評価86.0%、保護者肯定的評価73.0%であった。授業でのタブレット端末の活用や、教材や発問等の工夫をより行い、学校全体で「考え議論する道徳」を一層推進していく。

ケ 主体的・協働的に自己の生き方を考えていくための資質・能力や積極的に社会に参画する態度を育てる総合的な学習の時間

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、職場体験等体験的な学習ができなかったが、それに代わる代替の学習を取り入れながら各学年で取組を推進した。1年生での各教科と関連したSDGs、2年生での職業講話、美術科での作品を活用した茶道体験等を実施した。特に、2年生での職業講話では、学校運営協議会が中心となって講師を探し、実施することができた。調べ学習や発表とにもタブレット端末やICTを活用して行うことができた。生徒評価の「総合的な学習の時間は、自分で課題を設定し、まとめる力や伝える力の向上に役立っている」の生徒肯定的評価90.9%、保護者肯定的評価64.9%であった。保護者には、生徒の学びや学校での取組の情報を積極的に発信していく。

【生活指導・進路指導】について

ア 生徒理解に努め、学習規律・挨拶・言葉遣い・時間厳守・清掃活動などの指導を共通理解・共通実践

※生活指導部を中心に、共通認識・共通実践を行ってきた。生徒肯定的評価「自らすすんで挨拶している」90.7%、「人の話を聞く態度ができている」94.5%、「いつも善悪の判断をつけて行動している」95.1%、「清掃にまじめに取り組んでいる」96.2%となっており、生徒の規範意識が高められていることが分かる。「学校はあなたの悩みや相談に適切にに応じてくれている」は87.9%となっていた。前期に比べて3.9%向上していることから、一人ひとりを気にかけて対応している成果だと考える。また、保護者の肯定的評価も前期に比べて後期は6.4%の向上が見られた。今後も教員が率先垂範を示しながら、一人ひとりを大切にしたい指導を推進していく。

イ いじめは全体に許さない学校づくりの推進

※年3回のいじめアンケートの実施をはじめとして、「アンテナ高く、迅速に、組織としての考え、組織で対応」を意識し、組織での対応を心がけて取り組んだ。学校いじめ防止対策基本方針の再確認をしながら、教員間での意識の向上に努めた。また、相談しやすい雰囲気つくすることで、早期対応につなげることができている。生徒肯定的評価「い

じめや暴力のない学校にするよう意識している」94.6%、「学校はあなたの悩みや相談に適切に応じてくれている」87.9%となっており、学校の対応により、生徒の意識も高められていることが分かる。「いじめや暴力のない学校にするよう意識している」保護者肯定的は73%となっているため、学校いじめ防止対策基本方針の一層の周知等を行いながら、学校と家庭で連携をした取組を推進していく。

ウ 相談機能の充実、不登校の未然防止及び早期解決

※必要に応じて、スクールカウンセラーや外部機関につなげることができた。特に12月からは家庭と子供の支援員を活用して、週2回別室経営を実施したことで、改善が見られた生徒が数名現れたことは大きな成果だと考える。また、スクールカウンセラーへの相談件数も多く、スクールカウンセラーが親身になって保護者や生徒に寄り添いながら対応していることで、支援につながっていると実感する。しかし、「学校や学級に行くのが毎日楽しみ」の生徒肯定的評価が83.8%となっており、在籍生徒のうち16.2%の73人はそうではないとの回答となっている。保護者肯定的評価は89.9%となっているため、学校での生徒の居場所づくりや、自己肯定感・自己有用感を高めていく取組を推進し、肯定的評価90%以上を目指す。

エ 不登校や支援の必要な生徒への組織的な対応

※スクールカウンセラー、巡回指導教員、特別支援教室専門員等さまざまな視点からの意見を基に、支援が必要な生徒への具体的な手立てを講じることができた。組織的に外部機関の連携を積極的に行い、「どこに」「どのように」支援を行うことが有効かを確認しながら行うことができた。教員の意識も高まり、特別支援教育コーディネーターの効果的な働きかけにより、三者面談等を通じて保護者と相談をしながら、支援につなげることができている。保護者肯定的評価「学校は悩みや相談に適切に応じてくれている」は前期よりも後期の方が6.4%向上した。生徒肯定的評価「いつも善悪の判断をつけて行動している」95.1%、「いじめや暴力のない学校にするよう意識している」94.6%の数値からも、安心した学校・学級を意識した生活を過ごせている。次年度からは、特別支援教室の拠点校となることから、より一層支援のための体制を構築していく。

オ 教育環境に関するユニバーサルデザインの視点に立った取組の推進

※掲示物の工夫を行い、生徒にとって学習しやすい環境作りを行った。特に数学・英語の少人数・習熟度別指導を教室以外の決められた教室（共用教室）で行い、生徒が落ち着いた環境の中で授業を行うことができた。「授業規律を守り授業を受けている」生徒肯定的評価97.8%とともに、数学科及び英語科の授業評価「先生の説明はわかりやすい」では、数学科の生徒肯定的評価92.5%、英語科の生徒肯定的評価91.0%となっている。

カ 温かい雰囲気の中で支援ができる全校体制づくりの推進

※特別支援教育校内委員会での支援会議等を基に、連携を図りながら支援を行うことができた。保護者への理解推進は、特別支援教育コーディネーターや巡回指導教員の助言が有効であった。「学校や学級に行くのが毎日楽しみ」の生徒肯定的評価が83.8%となっており、在籍生徒のうち16.2%の73人はそうではないとの回答となってい

る。特別支援教室の拠点校となる次年度に向けて、生徒への理解の推進を学校で一層推進していく。

キ 外部と連携した「学校力」の向上

※必要に応じて、学部機関と連携を図りながら生徒や家庭の支援を行ってきた。さまざまな家庭環境の中にある生徒の課題も多様であり、学校だけでは解決できないことも多い。「学校は悩みや相談に適切に応じてくれている」の保護者肯定的評価は80.7%となっている。今後も、保護者が相談しやすい雰囲気をつくりながら、必要に応じて、必要な支援が、必要なときに得られるようにするとともに、教員の対応の一つとして相談機関の知識を持てる組織体制を構築していく。

ク 生徒が主体的に自らの安全を守るために行動する防災教育・安全指導の充実

※新型コロナウイルス感染症対策を継続する中で、主体的に感染症対策に取り組むことを日々呼びかけて実践した。「新型コロナウイルス感染症対策を行なって生活できている」の生徒肯定的評価96.0%、保護者肯定的評価92.8%であった。避難訓練については、部活動時、緊急地震速報対応、放送聞き取り等を行いながら、生徒の安全への主体性を高める工夫を行い、実践した。また安全指導日にプリントを活用しながら生徒への安全についての意識を高めた。次年度は、自分たちで安全を守る意識を一層高める安全教育を推進するとともに、災害時の引き渡し訓練を実施する。

ケ 情報モラル教育の充実

※一人一台端末の運用に当たっては、校内での使用ルールを策定して取り組んでいる。7月には外部機関と連携を図り、セーフティ教室を実施した。「家庭で保護者と、スマホやパソコンなどの安全な使用やルールをしっかりと話し合っている」の生徒肯定的評価84.5%、保護者肯定的評価80.3%となっているが、生徒評価は前期よりも後期の方が3.9%減少した。安全かつ適切に使えるように、生徒はもちろん保護者への啓発にもPTAや学校運営協議会等都連携を図りながら取り組んでいく。

コ 組織的な生徒指導と保護者対応

※生活指導主任を中心に共通認識・共通実践を行いながら、生徒たちに落ち着いた学校生活を送らせることができた。新型コロナウイルス感染症のため、地域の見守りや指導については行うことが難しかったが、必要に応じて連携を図りながら進めることができた。五中学区の小中3校の校長が月に1回集まって情報共有を行う中で、校外での挨拶など児童・生徒のよい面を伝え、全校朝礼などで紹介を行った。「学校は悩みや相談に適切に応じてくれている」の保護者肯定的評価は80.7%となっており、特に後期は前期に比べて6.4%向上した。今後も、丁寧な対応を心がけ、学校・家庭・地域で生徒の健全育成をすすめていく。

サ キャリア教育の推進

※自己実現に向けて、第1学年は「進路について」、第2学年は「職業について」「進路先について」、第3学年では「自己の進路に向けて」各学年でキャリア教育に取り組んだ。第2学年では、6名の講師による職業講話を行い、職場体験に代わり職業観に関する知識を身に付ける機会を設けた。「将来の進路や生き方について考えている」の生徒肯定的評価は76.6%、保護者肯定的評価は62.7%であったため、キャリア教育の推進については課題であると認識している。コロナ禍でも、オンライン等で外部人材

を活用したりしながら、実際に働いていたり、その仕事に就くために努力している人の話を聞く機会を増やししながら、進学を含めて、生徒が主体的に将来に向けた力をつけていく方法を考え、実践していけるように取り組んでいく。

【学校運営】について

ア 組織的な機能と活性化

※分掌主任を中心に、概ね組織的に円滑な業務を推進することができた。また、報告・連絡・相談・記録についても、概ね実施され、必要な事柄は教職員で共有した。今後は、主幹教諭、分掌主任を中心に、起案文書を通じて役割と責任をさらに自覚させ、組織の活性化を図る。

イ PDCAサイクルに基づいた組織運営

※各行事も昨年度の課題と新型コロナウイルス感染症対策を考慮しながら、計画→実施→修正→実施を行った。「学級活動や委員会活動、学校行事に積極的に取り組んでいる」生徒肯定的評価は88.6%であり、生徒の意欲的な関わりにつなげることができた。反省が直後に行われなかったため、次年度は、年間計画の中に入れることで、次年度に向けた成果と課題を早めに検討できる体制づくりを行う。

ウ コミュニティ・スクールとしての運営の円滑な推進

※生徒のニーズを把握するため、「ボランティア活動」及び「放課後学習教室」の意識調査を生徒に実施した。学習支援の人材確保を学校運営協議会に依頼し、12月27日、28日の2日間、元大学講師及び東京農工大学の学生が学習支援に入る「五中地域未来塾」の試行実施を行った。参加生徒第1学年～第3学年の18名であったが、「自分の学習に役立ちましたか」の生徒肯定的評価は100%であった。新型コロナウイルス感染症の状況によるが、次年度の7月を目途に平日での実施に向けて準備をしていきたい。また、創立60周年記念事業の組織作りは行うことができた。コロナ禍でも実施可能な企画をし、当年に向けて準備を整えていく。

エ 小中連携・一貫教育により、第五中学校区での9年間の学びと育ちの推進

※年3回設定されている小中連携の日のうち、1回目は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。2回目は五中にて小学校の先生方を招いての授業参観及び各教室からのリモートによる分科会の開催。3回目は感染症拡大防止のため、授業参観を行わずに各校からのリモートでの分科会を行った。今年度、3校のうち2校の校長が代わったため、中学校区で育てたい児童・生徒像の共有が図られずに、情報共有が主な分科会の議題となっていた。しかし、情報共有から、中学校区で共通に育みたい力を見つけ、次年度に向けての取組の方向性を探ることができている分科会もあった。次年度は、小中一貫コーディネーターを中心に、育てたい児童・生徒像を基にした、具体的な小中での取組を一層推進していく。

オ OJTの推進による若手教員の育成と組織力の向上

※1年次～3年次の若手教員のOJTを計画的に実施し学校全体で組織的な育成を図った。特に、1年次の若手教員には副校長が計画した15分間のOJT研修を年20回実施した。講師も本校1校目の中堅教員から主幹教諭、管理職と多岐にわたり、それぞれ

教える方自分の指導を振り返るよい機会となっている。また、副校長等校務改善支援員を活用して、印刷や製本などの教員の支援を増やしたことで、教員の業務効率化につながっている。

力 予算の有効活用の推進

※管理職と事務室との連携を密に図りながら、予算の効果的かつ効率的な運用を心がけて実施することができた。また、事務室の尽力により、適正かつ正確な支払いのシステムで、執行状況や支払い状況の確認をすることができている。私費負担の軽減に向けて、副教材やワーク・ドリルの精選を継続して行っていく。さらに、年間指導計画に基づいた教科消耗品の有効活用を一層推進するため、教員と事務室との連携強化を図っていく。

キ 施設や予算関係の課題解決

※事務・用務・管理職で週1回の経営支援会議を実施し、施設や予算等効果的な活用について情報共有を図ることができた。特に、施設については、経営支援会議で出された問題点を一緒に確認をしながら、教育委員会に折衝することで改善を図ることができた。また、経営支援会議で出された内容を、経営会議や運営委員会で共有をすることで、より良い環境づくりを行うことにつながった。さらなる効果的な運用を図るために、経営支援会議に教員も参加をさせていくことを今後検討していきたい。「学校は清掃が行き届き、美しい環境づくりができています」の保護者肯定的評価88.4%、特に後期は前期に比べて6.4%の向上が見られた。学校での事務・用務の取組も学校からの情報として発信していく機会を設けていきたい。

【特別活動】について

ア 「主体性」「協働」「創造」での活動の推進

※学校行事では、今までのやり方にとらわれずに新型コロナウイルス感染症対策を講じた中で実施できる形態を模索して実施につなげた。特に、合唱祭では、「主体性」「協働」「創造」を生徒が体現する取組となった。「学級活動や委員会活動、学校行事に積極的に取り組んでいる」の生徒肯定的評価は88.6%であった。次年度は、さまざまな活動を「生徒の手」で創りあげる場面を意図的に増やししながら、より生徒の主体的な取組を推進していく。

イ 望ましい人間関係の形成や社会の参画に自主的・実践的に取り組める生徒を育成

※全ての教育活動において、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、実施可能な計画を立案して取り組ませることができた。「学級活動や委員会活動、学校行事に積極的に取り組んでいる」の生徒肯定的評価は88.6%であった。今までとは違った形での取組であったが、生徒自らが考えて実践した内容（運動会での発生を伴わない内輪での応援スタイル、合唱祭での3年生のクラスを越えたパート練習の実施形態など）が生まれた。

ウ リーダーの育成

※学年に応じて集団の育成を図ることができた。特に、3年生は、行事において主体的に取り組む場面を教員側が計画的に仕掛け、最上級生としての姿を下級生に示すことがで

きていた。その姿を１・２年生が学び、ロールモデルとして、理想とする姿につなげていた。委員会活動を含め、上級生の姿や言葉を伝える場面を学校生活の中で増やししながら、自己調整（セルフコントロール）ができる力を育成していく。

エ 主体的な活動を活性化

※リーダーの育成に向けた意識を高めるために学期に１回以上、生徒会本部役員と校長とが話す機会を設けた。特に、FCGsの推進に当たっては、他校での例を参考にしながら、担当する教員が丁寧に生徒会本部に指導・助言を行いながら具体的な実施に向けて準備を進める中で、生徒が主体となって取り組んでいる。

オ 効果的かつ効率的な部活動の運営

※部活動ガイドラインに沿った形で部活の実施が行われている。「自らすすんで挨拶している」の生徒肯定的評価は９０．７％となっており、部活動の日常的な活動の様子から部活動を通じて、礼儀や挨拶が身に付いている部分も多く見られる。新型コロナウイルス感染症対策も講じながらの安全な活動も継続していく。

カ 部活動における主体的な活動

※部活動は、自らが選択をして活動する場である。「部活動に積極的に参加し、有意義な活動をしている」の生徒肯定的評価は９４．９％、保護者肯定的評価は９２．７％と高い数値を示している。目標向かうための努力や協力すること、折り合いをつけながら前に進むことなど、異年齢集団の中で学ぶことは多い。その中で、やらされるのではなく自ら目標を立て、主体的に取り組めるように教員や外部指導員が支援をしていくことが大切である。外部指導員については、技術指導に関して有効となっているが、心身の健全な育成を図っていくために、学校の指導方針を顧問とともに共有して指導していくことが改めて大切であることを認識している。外部指導員の有効活用を図るためにも、年度当初の面談を今まで以上に丁寧にしながら、部活動の運営を推進していく。

令和4年度の重点課題

- (1) 「確かな学力」・・・「疑問をもち、考え抜く力」の育成
 - ・言語活動の充実及び「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
 - ・教科等や生徒会活動にE S D (S D G s)の視点を取り入れたカリキュラム・マネジメント
 - ・一人1台端末やI C T等を活用した「個別最適な学び」や「協働的な学び」の推進
- (2) 「豊かな心」・・・「思いやりのある心と行動力」の育成
 - ・暴力やいじめを許さない人権尊重教育の推進
 - ・豊かな心を育む道徳教育の充実
 - ・勤労体験やボランティア活動等の推進
- (3) 「健やかな体」・・・「一歩前に踏み出し、粘り強く取り組める力」の育成
 - ・主体的に取り組める行事や委員会活動の企画と運営
 - ・問題解決的な学習や体験活動の充実
 - ・基本的な生活習慣、自分も周りも守る健康と安全についての理解と実践力
 - ・相談機能の充実と関係機関との連携の推進
- (4) 「学校力」・・・「連携による学校力」の向上
 - ・新型コロナウイルスの感染症予防策を講じた計画と実施
 - ・小中連携の推進
 - ・コミュニティ・スクールの機能を生かした地域連携の推進
 - ・特別支援教育の充実
 - ・創立60周年事業の実施